

平成二八年度 大妻中野中学校 海外帰国生入学試験第一回 十一月二八日 問題用紙

国語

座 席 番 号
番

受 験 番 号
番
氏 名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて全部で9ページあります。
- (二) 試験開始後、ただちにページ数を確認して下さい。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに座席番号と受験番号と氏名を忘れずに記入してください。受験番号と座席番号は算用数字で記入して下さい。
- (四) 試験時間は五十分です。
- (五) 解答は全て解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

□ 次の文章をよく読んで、あとの各問に答えなさい。なお、解答は記号や句読点も一字として数えて答えなさい。

①日本人は顔というものを、たいへん重んじてきた。それを語っているのが、つぎのようなさまざまな表現であろう。「顔を立てる」「顔をつぶす」「顔をかす」「顔をきかせる」「顔負け」「顔役」「顔馴染」「顔ぶれ」「顔見せ」「顔立ち」「顔出し」「顔をつなぐ」「顔から火が出る」「顔に泥をぬる」「合わせる顔がない」……。

顔には人間の大切な器官が集まっている。目、耳、口、鼻。五官のうちの四官までが顔に集中しているのだから、どんな民族にあっても顔は人間の中心的な役割を担っているといえようが、とくに日本人は顔にこだわる民族ではなからうか。だから人格のすべて、名誉や権力に至るまでを顔で代表させるのである。右にあげた表現のどれひとつとして、外国語に直訳できる例はない。②顔を立てる」を英語でスタンド・アップ・マイ・フェイスといって、相手を驚かせたという笑い話さえある。

そのような顔のなかでも、日本人はとくに目を重んじたらしい。それも日本語の多彩な表現が証明している。試みに辞典を繰ってみるとよい。「目」という項目に、目という言葉を用いた表現が、それこそ「目を丸くする」ほど並んでいる。「目に障る」「目をかける」「目をつぶる」「目が高い」「目に余る」「目のクスリ」「目の毒」「目をむく」「目鯨を立てる」「目を細める」「大目にみる」「目にものをいわせる」「目ごとび出るほど」「目の仇」「目をこやす」「目も当てられぬ」「目からウロコが落ちる」「目頭が熱くなる」「目が利く」「目を光らす」「目に入れても痛くない」「目から鼻に抜ける」「抜け目ない」「目がなない」「目じゃやない」「目が離せない」「目の黒いうちは」「人目につく」「ひどい目にあう」「目もくれない」「目を凝らす」「目を通す」「目をつける」「目を開く」「長い目でみる」……いや、きりがなない。

このような表現のほかにも、**I**、「目当て」「目盛り」「目方」「目安」「目的」「目算」「目標」「目録」「目次」「眼目」「目上」「目下」「勝ち目」「負い目」「憂き目」「破目」「大き目」「小さ目」「ひかえ目」「まじ目」「駄目」といった用法があり、日本人がいかに「目」を大事にしてきたか、こうした単語から充分にうかがえよう。「面目をほどこす」、あるいは「面目ない」という言葉が、それを象徴しているといってもよい。日本人にとって人格を代表するものが「顔」すなわち「面」であり、その面を代表するのが「目」なのである。だから目は転じて「芽」となり、「網目」「編み目」など、結節点の意にも使われ、「節目」をさすようになった。さらに③目は中心も意味し、「一番目」「何丁目」という序列にも用いられ、「いい目にあう」「痛い目にあう」などと重要な体験にも引きあいに出されることになる。「顔」についても同様である。「顔」は「面」といわれたが、面は同時に面、すなわち表であり、おもては「面目」「体面」、**II**「名誉」を担うようになるのだ。ついでにいえば、「面白い」とは、顔が白くということではなく、眼前が明るい意から、心が晴れ晴れするときのさまをいうようになったとのことだ。

このように、日本人は「顔」や「目」によって人格を代表させ、それこそ「面目」を大切にしてきたのであるが、**III**、それはあくまで「おもて向き」のことであって、じつをいうと、それ以上に「うら」を重要視してきたのである。おもてが建前であるなら、うらは本音といってもいい。そして、ここに④日本人特有のおもてとうらの観念が成立する。**IV**、おもてが「花」なら、うらは「実」というような表裏の関係である。し

たがって、日本人にとっておもては人格にかかわるほど重視すべきものではあるが、その人格を左右する本質はうらにあるといえる。そこで日本人の本質を問うならば、おもてよりもむしろ、うらという言葉の意味をさぐらなければなるまい。日本人にとって、うらとは何なのであろうか。

《中略》

うらという大和言葉は、おもてに対する内側を意味するが、同時に「こころ」のこともあった。それは「うら悲しい」「うら淋しい」という形でいまに残っている。「うら悲しい」とは、心悲しいの意味であり、「うら淋しい」とは、心淋しいということである。また、「うらやましい」は「心が病む」こと、「恨み」とは相手の心をじっと見つめる、つまり、相手のやり口に不満を抱きながら、相手の心をうかがっていること、「うらぶれる」とは、心があぶれるの意とある。(岩波版『古語辞典』)

「うらなう」という語も、うら(心)に由来するのではなからうか。【A】つまり、かくれた神の心を推測することが占いなのである。そもそも、うらとは「見えないもの」「かくれているもの」の義であった。したがって、うらとは「内部」であり、「奥」であり、「下」であり、「反対側」を意味した。【B】おもてⅡ面(顔)に対して、心は見えない。【C】入江を「浦」というのもこの原義からきている。【D】外洋はいわば海のおもてだが、内海、入江、湾は外海からは見えないかくれた海である。だから「浦」というのだ。【E】

見えないもの、かくれたものに対して人間は、とうぜんプラス・マイナスふた様に反応する。その正体がさだかではないから、まず恐怖や不安が先立つ。けれども、その恐怖や不安は、やがて*1畏怖から*2崇敬へと変質していく。信仰の起源はここにあるといつてよい。日本人が見えない部分、かくれたところを、いかに重視したかは、「うら」という言葉の用法からも察することができる。小切手には「裏書」が必要である。証言に対しては「裏付け」が不可欠だ。破損したものは「裏打ち」をしなければならぬ。相手に勝つためには「裏に行く」ことが重要である。話は「裏話」こそがおもしろい。そして、うらが大切であればこそ、「裏切り」は憎むべき行為となる。

むろん、うら、すなわち見えない、かくれたものに対してはマイナスのイメージもつきまとう。「裏取引」はけっして好ましいものではないし、人生の「裏街道」に行くことはこころよいことではない。「裏口営業」や「裏口入学」などは大いに指弾される。しかし、日本人はどんなものごとにも「裏」があると確信している。いや、裏にさえ、さらに裏があると思っっているのだ。「裏には裏がある」という諺がそれを語っている。こうして、日本人は「うら」という觀念に対して、アンビバレンツ(両極的)なイメージを抱きつつ、特有な心情をつくりあげたように思われる。日本列島の日本海側を「裏日本」と呼ぶことを侮蔑のように受けとりながら、天皇の住居を「内裏」というように、である。「裏」、すなわち見えないもの、かくれたものをいとわしく思いつつ、一方でそちらを重視し、ものごとの本質と考え、畏敬さえするのだ。だから、おもてⅡ顔に対して、見えない心をうらといい、おもてよりうらに価値を置くのである。うら(裏)から転じたと思われる「浦」を思い描いてみるとよい。前にもふれたが、優しく美しい山河にめぐまれた日本列島のなかで、古来、日本人がこの上なく愛したのは、⑤あの日本三景に代表される浦(内海・入江・湾)の風景ではないか。日本人の美感とは、うらの美学といつてもいいのである。『新古今集』に収められている藤原定家のつぎの一首が日本の美学の本質

とされるゆえんである。

⑥見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋とまやの秋の夕ぐれ

ところで、西欧の人たちも、見えざるもの、かくれているものに対しては、畏怖いふや不安を感じている。だが、彼らは見えないもの、かくれたものについてのそのような不安を克服しようと、いうなら、うらをおもてへ引き出す努力を不断につづけてきた。ヨーロッパが育てあげた科学はまさしく、そのような精神の軌跡せきにほかならない。科学とは、⑦裏うらを表おもてにする作業なのである。

そのようなヨーロッパの人に対して、日本人はすべてのものごとに「裏」を見ながら、「裏」をつきとめようとはしなかった。「裏」を「裏」として、ただ承認しただけだった。それどころか、「裏」を「表」にかえしたり、「表」を「裏返し」たりすることは、けつして好ましいことではないと信じてきたのだ。日本人の「おぼろの美学」が何よりもそれを証言している。日本人はあからさまなことをきらい、ものごとをあきらかにすることをあきらめるとい形で、断念するの意へと転化させてしまった。なぜなら、ものごとがあきらかになれば、そこにはもう「裏」はなく、何の価値もなくなってしまふからである。日本人はそれを白々しろしろしいともいった、白々しいとは、本来はものごとが明白であることを意味したのだが、白々しいことを日本人はけつして好まず、味気ないものと感じたのである。最近、よく使われるようになった「白ける」という表現も、その間の消息をよく語っている。ことが明白になれば、不安や怖れおそはなくなるであろうが、同時に期待は失われ夢もまた消えるからである。『花伝書』につたえられている世阿弥ぜあみの有名な「⑧秘ひすれば花なり」という言葉も、日本人の美学を端的にいいあらわしたものといつてよい。

と、こう見てくると、日本人の表裏の感覚こそ、日本人の心情を最もよく黙示しているように思えてくる。その「思う」という言葉さえもが表裏の感覚と無関係ではないのだ。前記の『古語辞典』によれば、「思ひ」とは、「オモ（面）オヒ（覆）の約か」とあり、「胸のうち」に、心配・恨み・執念・望み・恋・予想などを抱いて、おもてに出さず、じつとたくわえている意が原義」とある（傍点引用者）。つまり、秘すればこそ、思ひはつり、育つのである。だから「思ひ」は心の底にしまっておかねばならない。「思ひあが」つてはいけないのだ。

《語注》

*1 畏怖…おそれること。

*2 崇敬…うやまうこと。

問一 文中の I く IV に入る最も適切な言葉を次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ しかし ウ すなわち エ そして オ また カ つまり

問二 ——— 部① 「日本人は顔というものを、大変重んじてきた」とありますが、それはどのような理由があるからだと筆者は考えていますか。

次の空欄に入る最も適切な部分を本文中より二十五字で抜き出して答えなさい。

・日本人は から。

問三 ——— 部② 「顔を立てる」の本来の意味を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア その人に与えられる世間の高い評価が保たれるようにすること。

イ その人の気持ちや感情が表情にはつきりと表れるようにすること。

ウ その人の顔がよく見えるように周囲の障害物をかたづけること。

エ その人にはつきりとした指示を出してもらうように質問すること。

問四 ——— 部③ 「目は中心も意味し」とありますが、この意味で使われている「目」を用いた文中以外の表現を、自分で考えて答えなさい。

問五 ——— 部④ 「日本人特有のおもてどうらの観念が成立する」とありますが、このうち日本人の「うら」に対する特有な観念（考え方）とはどのようなものであると筆者は考えていますか。それについて説明した部分を、《中略》以降から五十五字で抜き出し、その始めと終わりの五字をそれぞれ答えなさい。

問六 3 ページの で囲まれた段落の中には次の一文が入ります。【A】 く 【E】のどこに入れるのが最も適切ですか。記号で答えなさい。

・だからうらなのである。

問七 ——— 部⑤ 「あの日本三景」とありますが、次にあげる名勝地のうち「日本三景」ではないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 天橋立（京都府） イ 安芸の宮島（広島県） ウ 松島（宮城県） エ 富士山（山梨県・静岡県）

問八 ——— 部⑥ 「見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の^{たまや}菅屋の秋の夕ぐれ」の和歌には、筆者が本文中で説明している「おもて」にあたる言葉が含まれています。次のア～カのうち、最もふさわしいものを二つ選んで、記号で答えなさい。

・見渡せばア花もイ紅葉もなかりけりウ浦のエ菅屋のオ秋のカ夕ぐれ

問九 ——— 部⑦ 「裏を表にする作業」とありますが、西欧の人がこの作業をするのはなぜだと筆者は考えていますか。次の空欄に合うように、本文中の言葉を用いて三十字程度で答えなさい。

・西欧の人が

_____。

問十 ——— 部⑧ 「秘すれば花なり」とありますが、この場合の「花」と同じ意味で使われている表現を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 花より団子 イ 花の都 ウ 言わぬが花 エ 両手に花

問十一 次のア～カについて、本文の内容と合致しているものには○を、合致しないものには×を、それぞれ解答欄に記入しなさい。

- ア 日本語は表現が多彩なので、外国語に翻訳できる日本のことわざはどれ一つとしてない。
イ 日本人は「おもて」と「うら」を同じように重要視し、大切なものであると考えてきた。
ウ 日本人は「本音」と「建前」を上手に使い分けるので、西洋人にはなかなか理解されない。
エ 日本で天皇の住居を「内裏」と呼んでいるのは、見えないものを敬う気持ちがあるからだ。
オ 日本人は、ものごとの本質をはっきりさせることに対して美しいとは思っていない。
カ 日本人は「思いあがつ」て失敗ばかりするので、思いは隠すべきであると筆者は述べている。

□ 次の各問に答えなさい。

A 漢字に関する問題

問一 次の——部のカタカナを漢字で答えなさい。

- ① 国家は人命をタツトぶ。
- ② もう朝食はスませたよ。
- ③ 今は僕にシタガってもらう。
- ④ ストーブで体をアタタめる。
- ⑤ 彼女はスグれた成績を残した。

問二 次の——部の漢字のよみをひらがなで答えなさい。

- ① 勇気を奮って強い敵に立ち向かう。
- ② 垂らしたしずくが凍っている。
- ③ タマネギを刻んでなみだが出た。
- ④ 神だなお菓子をお供えた。
- ⑤ 湖に映る山の姿は美しい。

B ことわざ・慣用句に関する問題

問三 次のことわざの に共通して当てはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- ① をかける / ちりも積もれば となる / 一 あてる
- ② に流す / をさす / を向ける
- ③ が出る / 雨降って 固まる / に足がつく
- ④ 焼け に水 / の上にも三年 / 橋をたたいて渡る
- ⑤ の車 / を見るより明らか / の消えたよう

C 文法・言葉遣いに関する問題

問四 次の各文を、意味が不自然にならないように区切って言葉のまとまりにしたもの（＝文節）として、正しいものを次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① ソファアでうとうと昼寝をしている猫。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|---------|---|-------|---|------|---|----|---|----|
| ア | ソファアで | / | うとうと昼寝を | / | している | / | 猫。 | | | | |
| イ | ソファアで | / | うとうと | / | 昼寝を | / | している | / | 猫。 | | |
| ウ | ソファアで | / | うとうと | / | 昼寝をして | / | いる | / | 猫。 | | |
| エ | ソファアで | / | うとうと | / | 昼寝を | / | して | / | いる | / | 猫。 |

- ② ある日の夜明けのことである。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|--------|---|--------|
| ア | ある | / | 日の | / | 夜明けの | / | ことである。 |
| イ | ある | / | 日の | / | 夜明けの | / | ことである。 |
| ウ | ある日の | / | 夜明けの | / | ことである。 | | |
| エ | ある日の | / | 夜明けの | / | ことである。 | | |

③ 今朝私はいつになく早く出発した。

ア	今朝	／	私は	／	いつになく	／	早く	／	出発	／	した。
イ	今朝	／	私は	／	いつになく	／	早く	／	出発	した。	
ウ	今朝	／	私は	／	いつに	／	なく	／	早く	／	出発した。
エ	今朝	／	私は	／	いつに	／	なく	／	早く	／	出発した。

④ お客様に熱いお茶をお出しする。

ア	お客様に	／	熱い	／	お茶を	／	お出しする。
イ	お客様に	／	熱い	／	お茶を	／	お出しする。
ウ	お客様に	／	熱いお茶を	／	お出し	／	する。
エ	お客様に	／	熱いお茶を	／	お出しする。		

⑤ 良くないことはしてはいけないよ。

ア	良くない	／	ことは	／	しては	／	いけないよ。		
イ	良くない	／	ことは	／	しては	／	いけないよ。		
ウ	良く	／	ない	／	ことは	／	しては	／	いけないよ。
エ	良く	／	ない	／	ことは	／	しては	／	いけないよ。

以上